令和８年度　小野小学校　学校経営要綱

【学校経営経営要綱の内容】

Ⅰ　学校経営の基本構想

1　本校経営の基盤
2　学校の教育目標
3　本校教育の課題
4　具体目標

Ⅱ　令和８年度の重点目標及び経営の重点

1　本年度の重点目標
2　重点教育目標達成のための経営の重点　　**3部会による指導の充実**
3　その他、推進していく教育活動

Ⅲ　学校経営重点構想図

Ⅰ　学校経営の基本構想

1　本校経営の基盤

（１）公教育の立場に立つ学校

・日本国憲法、教育基本法及び学校教育法の理念に基づき、学習指導要領に準拠した教育課程、福岡県教育施策・古賀市教育施策・学校管理規則に則る学校教育を行う。

（２）現代社会の要請に応える学校

・社会の変化に自ら対応できる心豊かな人間の育成を目指して教育を行う。
・人権尊重の精神の涵養、基礎・基本的内容の定着、一人一人の個性やよさを生かす教育を行う。

（３）地域や児童の実態を生かす学校

・本校教育の実績・伝統を尊重し、人権・同和教育を基盤とした新たな校風づくりを行う。
・地域のよさを生かした学習を重視すると共に、学校・家庭・地域が連携した協働教育を行う。

2　学校の教育目標

「地域を愛し、やさしさ、かしこさ、たくましさを発揮する小野っ子の育成」

教育目標に対する校長の見解

地域を愛するとは、地域と関わる学習活動や地域行事への参加等を通して、ふるさと小野のひと・もの・とに対して、愛着と誇りを感じるとともに、その中で『なりたい自分』をイメージしながら、『夢』をもち、将来へのエネルギーをためていくことができるようにすることである。そのためには、健全な生活モデルを知り、地域・家庭との連携を充実させながら、諸体験に進んで臨み、人生をつくる力・社会を生きる力が満ち足りた身体作り・発想づくり（『たくましさ』）を実践しつづける必要がある。

また、健全な発想は、友達・家族・地域に関心をもち、『やさしさ』をもって繋がることから涵養されるものと考える。他者と関わりつながる喜びから自他のよさに気づくとともに、人権を大切にし助け合う行動実践を積み上げ自己有用感を味わうことで、さらに『やさしさ』をもって主体的に人生を創造する発想へ導きたい。

最後に、規律ある環境の中で意欲をもって学び合うことで、わかった」、「できた」という喜び（『かしこさ』）を味わい、さらに得た知識や技能を発揮して、協働的に学ぶよさを体感するなかで、自分の考えを確かなものにする喜び（『かしこさ』）を生み出すものと考える。

3 具体目標

（1）目指す児童像

①【地域を愛する子】
・地域に愛着や誇りをもち、その関わりの中で自らの将来像や夢を描く子

②【心：やさしい子】
・友達や家族・地域との関わりを大切にし、他者を認め、やさしく接する子

③【知：かしこい子】
・学習規律を守り、基礎的学力を身に付けて「わかった」「できた」を実感する子

④【体：たくましい子】
・体力向上に取り組み、何事にもあきらめずに粘り強く努力する子

【教職員評価、児童評価、保護者評価、地域評価 3.2Ｐ以上】

（2）目指す学校像

○明るく健やかな学校
・気持ちのよい挨拶や子ども達の笑顔があふれる、学習環境の整った学校
・いじめ・不登校の未然防止や早期解決に努め、一人一人を大切にする学校
・子どもたちが積極的に運動に親しむ健康意識の高い学校

○学び合う学校
・子どもの学ぶ意欲が高く主体的な学び合いが展開している学校
・子どもが「わかる、できる、深まる」授業を展開し、学力を伸ばす学校

○保護者や地域に信頼され、愛される学校
・社会に開かれた教育課程のもと、地域のよさを生かし貢献する実践をする進める学校
・つながりを大切にした「行かせたい・応援したい」コミュニティスクール

【教職員評価、地域評価 3.2Ｐ以上】

（3）目指す教師像

【人間性】
・子どものよさや可能性を信じ、子ども理解に努め、保護者や地域と協働できる教職員
・法令を遵守し、接遇態度をもって行動できる教職員

【専門性】
・教育専門職として、経営力・指導力向上のために自己研鑽に努める教職員
・子どもと共に創造し子どもの姿で実践を検証する、実践的指導力をもつ教職員

【組織性】
・学校の教育目標の具現化のために、学年学級経営・校務分掌に参画できる教職員
・他の教職員と理解し合い、協働できる「凝集性」と「同僚性」をもち合わせた教職員

【教職員評価 3.2Ｐ以上】

（4）目指す地域･家庭像

○　親子の会話を積極的に行い、子どもの思いを大切にする家庭
○「早寝・早起き・朝ご飯」や挨拶など望ましい生活モデルを実践していく家庭
○　学校と協働し、ほめて、鍛えて子育てを行う地域・家庭

【教職員評価、保護者評価、地域評価 3.2Ｐ以上】

4　本校教育の課題

（１）教育課題　　～児童・教員に解決を期待する課題～

◎相手や周囲の状況を理解し、思いやりのある行動をとり人間関係力を高める子どもの育成
◎学習意欲の高揚と確かな学力の定着、低学力層の改善　（個々の力を伸ばす取組）
◎不登校・不登校兆候の改善（未然防止・早期対応の徹底、関係諸機関との連携）
○教育活動における意思決定の場面設定、自己決定・成功体験の保障と発言力の育成
○友達と切磋琢磨し自己実現にむけ、失敗しても粘り強くやり遂げる子どもの育成

（２）経営課題　　～学校組織として解決したい課題～

◎学習指導法、学習規律（学び方）の共通理解と徹底（授業力向上の取組推進）
◎キャリアステージ（若手・ミドル・ベテラン）に応じた活躍の場の設定と人財育成
○家庭教育と学校教育の連携による基本的生活習慣の徹底
○地域の「ひと・もの・こと」の活用の継続、積極的かつ柔軟な開拓・調整
○ウェルビーイングを実現する働き方改革の推進（働き甲斐・効率化）

Ⅱ　令和8年度の重点目標及び経営の重点

1　本年度の重点目標

「わかった、できた、深まった」を実感する子どもの育成

（1）重点目標に関する意味･意義･手立てについて

①「『わかった、できた、深まった』を実感する」とは

「『わかった、できた』を実感する」とは、主体的な学習活動を通して、子どもが学習内容や技能を習得した上で、そのことを本人が自覚し、満足感を味わうことである。

「『深まった』を実感する」とは、わかった、できた、を通じて得た知識・技能をつかって考えをつくり（自己決定①）、他者との交流活動や対話をもとにさらに考えを確かなものへと深めていく（自己決定②）ことである。その際、子ども自身が考えの深まりを自覚（達成感・成就感を味わう）できるようにしたり、発信活動や貢献活動と結びつけ、有用感、効力感を味わわせたりすることが大切である。

そして、子ども一人一人が「わかった、できた、深まった」と実感する経験を積み重ねていくことは、学校生活や学習の充実につながり、本校の課題である学力の定着や不登校の解消につながっていくものであると考える。

②「『わかった、できた、深まった』を実感する子どもの育成」とは

「『わかった、できた、参加した』を実感する子どもの育成」とは、児童理解や授業力向上に関する研修や集団で取り組む行事等を組織的に推進し、理論研究や授業（実践）研究、学校行事、また日々の教育活動を通して、子どもの学力向上、心力向上（豊かな心の創造）、体力向上にむけて取り組み、努力することである。

（2）重点目標達成に向けて

本年度の重点目標では、学習活動を通して、全ての子どもが学力を伸ばし、協働的な学びの中で、満足感、達成感、さらには自己肯定感、自己有用感を高めていくことをねらいとしている。そのために、まず①校内研修等を通して、子ども理解に努め、組織として系統的な学習基盤・学習環境の整備するともに、各々が授業力の向上に努めること、次に②校外研修に積極的に参加し、学級経営力や指導力の向上に取り組むことが重要である。

2 教育目標(重点目標)達成のための経営の重点

(1) 自己や学級のあり方を振り返る学習の設定(道徳・学級活動・総合的な学習の充実)

重点Ⅰ【地域】
地域を愛する子の育成

① 地域連携活動の推進

ア 地域連携の視点による教育課程の確認、見直し

・各学年の年間指導計画（月別概要）を地域連携の視点から見直し、明確化する。

イ 地域関連学習（行事）の継続

・野幸山幸おのまつり、ほたるの学習、幼稚園（保育園）交流、地域探検等、キーとなる地域関連学習の継続した実施により、地域への愛情の高揚を図る。

② キャリア教育の視点から

ア 自己の振り返りの見える化の推進

・自己評価等、各種アンケート結果の提示と評価、キャリアパスポートの継続的活用

イ キャリア教育担当の取組

・教育活動におけるキャリア教育の視点にたった目標の設定の提案、自己決定の場の設定

・キャリア教育担当が意図的指導を発案し、児童会と連携しながら「挨拶できる子」「敬語が使える子」等の積極的生徒指導と実践、評価の場を結び付け、自己指導力を高める。

(2) 安心・安全を生む生徒指導面から

重点Ⅱ【やさしさ】
他者と関わり、他者を認め、優しく接する子の育成

① いじめ事案の１００%対応・解消の継続、対応の即時性及び見通し力の向上と組織的対応

・いじめ事案：担任→学年主任→いじめ対策委員会による把握を完遂。

・指導の組み立て（展開の全体）と初動（いつ・何を・どこまで）の徹底確認し、学年チームや生徒指導部・特別支援教育部等の組織で解決にあたり、その情報共有も徹底確認する。

・「報告(事実と見通し、対処の３点セット)・連絡相談(対処法が不明確な場合)」の徹底

② 不登校・不登校傾向の児童の前年度からの改善・・・不登校支援体制

・未然防止・早期発見・早期対応及びチーム力による組織的な力での改善

・児童・教師アンケート結果の「分析→課題把握→改善策→評価(共有化)」のサイクル徹底

・子どもの居場所づくりと支援体制の整理…**ステップルーム・保健室・パーソナルスペース**

③ 専門家や関係機関との効果的な連携と確実な進捗の把握…家庭地域連携

・古賀市子育て支援センター、あすなろ教室、ひまわり教室、家庭児童相談室、宗像児相、ＳＳＷ、ＳＣ等と、学校としての指導・戦略を組み立てた上で、連携の詳細を相談し、最適な実践を行う。また、関係機関との進捗状況は、必ず相互把握する。

(3) 支持的風土の醸成にかかわる道徳教育、人権教育の視点から

① 道徳教育・人権教育の推進

ア 道徳教育推進教員の役割

・道徳科指導法について提案授業を実施し、授業研究を推進する。研修の企画・運営

イ 人権学習参観による児童の人権意識の高揚と保護者啓発および道徳科指導力の向上

・７月に人権参観を実施し、児童の人権意識・人権感覚の高揚を図る。また、学級懇談における保護者への参観授業（人権学習）の意図説明を通して、保護者への啓発も図る。

・道徳科授業の教材研究、授業公開を通して、道徳科指導の授業力向上につなげる。

ウ 古賀市人権学習における授業研究の継続

・４年生「し尿処理学習（排育）」、６年生「人権歴史学習」の授業研究を校内研修に位置付け、人権教育への理解の深化を図る。

エ 古賀東中校区連絡協議会や学人研への参加を通して

・古賀東中校区連絡協議会をもとに人権教育の取組を充実させ、自尊感情の涵養を図る。
・カリキュラムに基づいた副読本「かがやき」「あおぞら」と古賀市副読本「いのちのノート」を活用し、授業実践研究に努める。
・古賀市や校区の人権研修会や古賀東中校区教育懇談会などでの意見交換を通して、地域の方の願いや思いを基に人権教育の取組の推進改善を図る。

オ 音のコントロールを意識した、他者への思いやりや場にふさわしい態度の育成

・相手意識やＴＰＯに合わせた行動を意識させ、廊下の歩行の仕方や集団内での声や音の出し方について考えさせ、コントロールできるように指導していく。
・必要に応じて、適切な声や音が出せるようにする。

② 特別活動（学級活動）の充実

ア 学級会の基本的な進め方の共通理解

・基本研修（若年教員１年目研修）における学級活動の授業研修を全職員の研修の場と捉え学級会の基本的な進め方について共通理解し全学級で実践を進める。

イ 支持的風土の醸成を意識した学級会の取組

・日常より支持的風土の醸成に努め、学級活動が、どの子どもも学級の一員として発言できる自己肯定感を味わう取組になるよう努める。

ウ 児童委員会を中心とした「挨拶運動」等の推進

・挨拶運動、挨拶総選挙、丁寧語マイスター等の継続した取組

(4)学力向上にむけた「基礎力・活用力」の育成、意欲を高め、楽しく学ばせる授業づくり

重点Ⅲ【かしこさ】・【研究推進】
学力をつけ、「わかる」「できる」を実感する子の育成

① 学力向上プラン（指標）の共通理解と取組の徹底

ア 学力向上プランの提案の場の確保

・年度当初の職員会議に明確に位置付ける（年間指導計画提案とは別枠として）

イ プラン達成状況についての全体的な振り返りと見直しの場の設定

・日常からプランを意識できる工夫と振り返りの研修の場の設定

② 基礎力・活用力の育成

ア 学習に臨む姿（学習規律）の共通理解と徹底

・「小野小スタンダード（学び方）」を系統的視点で作成する。
全学年学級で学び方を揃えた上で、授業における**(身・物・心)構えの指導**を徹底

イ 少人数指導・習熟度別学習等による、基礎的な知識・技能の個別指導の充実

・指導方法工夫改善教員による各学年の重点単元を明確にした少人数指導計画の作成と実施

ウ 朝の活動等を活用した基礎的知識･技能の定着

・カサハラテストによる漢字の定着や計算（九九等）の習熟

エ 実態に応じた学力向上の取組

・学力向上コーディネーター担当の一般研修『学力調査の分析をもとにした学年における指導の重点化』の実施と継続的指導

③ 子どもを引きつけ、楽しく学ばせる授業づくり

ア 実物やＧＴ、ＩＣＴ等の多様な資料を取り入れた授業の工夫

・地域の「もの・ひと・こと」の活用。驚きや思考のズレを生む教材開発、授業づくり
・ＩＣＴ機器（クロムブック・電子黒板等）の効果的活用

イ 交流活動の充実と活性化を図る取組、及び、見方・考え方を指導

・ねらいに沿った発問の整理と、教師による交流や思考（見方・考え方）のマネジメント
・「からみ（受け答え・よびかけ）がある交流」の重視

(5)研修・研究の面から

① 主題研究

ア テーマ　夢をもち、課題解決に向けて学び合いながら自他を尊重できる子どもの育成
～対話リフレクションによる教師の学びの充実を通して～

イ 主題研究の推進

○毎週火曜日を研修日に設定

・対話リフレクションと自主研修→グループ研修（互いに見合う学びの場の設定）

・自主的な授業公開とグループによる協議会

ウ 研究の特徴

【視点 1】仮説検証型から、仮説生成型への転換
【視点 2】職員の対話を基盤においた研修の時間
→　教師の学び(個別最適・協働的)を子どもに還元(指導法として具体化)
【視点 3】教師間の「凝集性」「同僚性」の高揚やキャリアステージに応じた人財育成

・児童の実態及び本校の課題を共通理解し、目指す子ども像（つけるべき力）の明確化。

・全ての子どもが「わかった、できた、深まった」を実感できる教育活動、指導法への接続。

・研修（リフレクション）スタイルを授業の交流活動(協働の学び)づくりへ活用。

② 教師力(授業力・経営力)の向上のための各種研修

ア 一般研修における教科指導法研究の推進（「わかった、できた」を実感する授業づくりへ）

・算数科・国語科等、教科指導法について研修を実施

・古賀市人権教育実践やを特別支援の視点での授業づくり等を含めた研修計画

イ 若年教員研修、中堅教員資質向上研修等、基本研修を活かして

・初任者や若年教員を全教員で育てるスタンスで → 示範授業や先輩授業の積極的実施。

・授業力アップ講座（メンター、メンティ）」研修の実施

ウ ＩＣＴに関する一般研修

・ＩＣＴ活用に関する研修を充実させ、効果的活用や実践的指導力の向上を図る。

エ 外部研修の充実

・教科等研、センター講座、研発等の校外研修等へ積極的参加を奨励（但し校内調整必要）

重点Ⅳ【たくましさ】
体力向上に取り組み、粘り強く努力する子の育成

(6)日常的に体を動かすこと、及び体育科の指導の充実(古賀市の共通の取組を通して)

① 立腰の徹底・継続

○ 腰骨タイムの取組の工夫

・腰骨タイムの時間設定と児童（保健委員会）の実施の継続

② 委員会主体の運動イベントの企画・実施

○ ドッジボール大会、持久走チャレンジ、大縄大会、単縄チャレンジ等の実施検討

③ 体育授業における継続的・系統的・発展的なウォーミングアップの工夫

ア 職員研修の実施

イ 運動習慣評価指標・・・日常的な運動習慣(週3日以上運動をする50%以上)

④ 体力テスト

ア 2回設定、指導員招聘等・・・年間計画に明記

イ 研修の実施・・・課題解決に向けた手立ての工夫と意欲付け

⑤ 体力向上プランに基づきスポコン広場への登録と体力アップシートの活用

○ 体育主任による職員への提案と定期的な確認

(7)組織の活性化と教師の指導力の向上を図り、教育目標の浸透、徹底を図る。

（チームとしての力＋個人の力の両方を向上）

① 校務分掌を工夫し、主体的・創意的なチェック機能を働かせる。(別紙「校務分掌図(案)」参照)

・分掌を知力・心力・体力の3つに分け、各部のチーフ★を置く。

『やさしさ』　心力　【専門部：生徒指導・特別支援教育】

『かしこさ　』知力　【専門部：学力向上　研究推進委員会と連携（授業力の向上）】

『たくましさ』体力　【専門部：体育部（保健・給食・安全・清掃）】

② 3部会の機能化

□組織及び取組内容

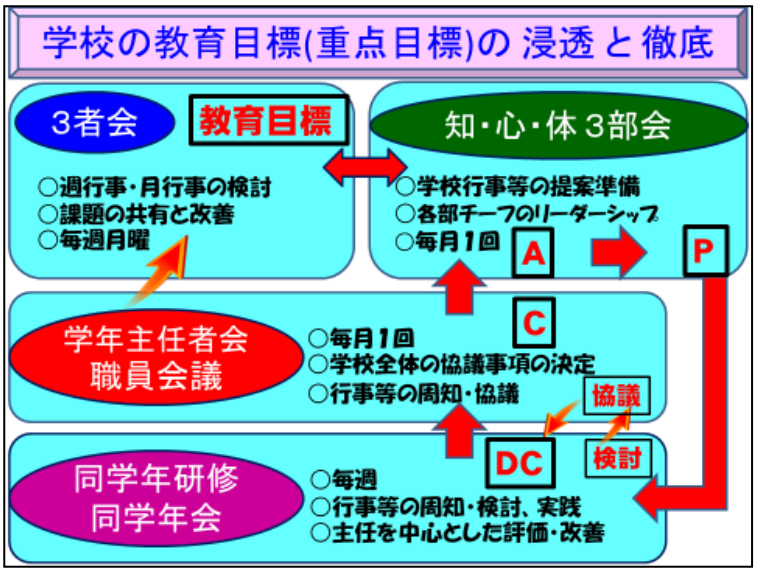
・学年から、3部会に1名ずつ所属

・部会の内容は(別紙「校務分掌の仕事内容図」を参照)

□運営

・分掌部会運営は、チーフ★のリーダーシップもと、教育目標を意識しながら、プランを作成

「実践活動(Ｄｏ)をもとにして「現状把握・計測(Check)」と同時に、「改善(Act)」「P(施策再立案)」＝**“改善方針と施策の立案”**を行う。



P　:分掌部会・・・・・・・・・・・2ヶ月先迄の実践内容と方法を協議・確認・決定。**(評価シート作成)**

Do:同学年研修会(随時)・・3 部会の取組を共通理解し、各学年で協働実施。

C　:同学年研修会(随時)・・協働実践の評価や子どもの育ちの評価(各分掌で作成の評価シートを活用)

C　:学年主任者会・・・・・・・・学年の進捗状況と子どもの育ちの評価を集約・報告するとともに、学年主任者は、経営と運営の改善・意見を行う。

A　:分掌部会・・・・・・・・・・学校運営委員会の評価・意見から、A・P改善方針(もっとこうする)を出す。

※立案(改善・実施)する内容は、教頭と協議。時期の重なり等を主幹と微調整。

ミニ主任者会、ミニ分掌部会は立ち話ミーティングで随時遂行。省力化し、機動力アップ。

③ 3部会と学年部会で、「具体的な行動目標・指標」「機動させる人・もの・こと」を設定して、実践し、各部で最終評価を行う。

「具体的な行動目標・指標」「起動させる人・もの・こと」を学年・学級経営案に盛り込み、分掌の細案に従って実施し、分掌の出す小野っ子の指標で最終評価。

④ 校内評価の工夫・改善

・学校経営案のビジョンが、学年経営案や学級経営案に反映されていること。

・自己評価表(学級経営案)の**具体的方策を、学年経営案に照らして明らかに**する。

・学年研修会で、実践・取組の評価改善を話し、各分掌部会のＡ・Ｐへ反映する。

・AAR(After Action Review)の徹底。校務運営の提案文書集からの変更は、起案必須。必ず、本年度の取組の振り返りを、来年度の起案に盛り込んで皆に提示してから、終了とする。

⑤ 時制の工夫による連携・研修・作業時間の捻出

・朝の指導時間や昼の掃除時間の整理による、学年・分掌等の連携強化と研修や作業の充実。

・授業時間数を鑑みた、高学年のクラブ活動の免除。

⑥ 行事短縮・整理による指導の焦点化・省力化と指導の最適化　時間外勤務:月 45 時間以下

・運動会などの学校総体の行事を学年行事へと移行させることで、指導の焦点化・省力化、

指導の最適化を図る。

3 その他、推進していく教育活動

(1) 特別支援教育の充実

① 研修の充実

・特別支援教育の推進、特別支援学級の経営の方針、発達障害の子どもの状況理解などの研修を行い、特別支援コーデネーターの発信のもと、全職員が特別支援教育についての共通理解を深める。

② 個別の支援計画等を活用した支援体制の整備

○個別の支援計画・指導計画を活用した特別支援学級と通常学級の連携の日常化。

・校内委員会の明確化・定例実施 →校内研修として定例化

・個別の指導計画の形式の工夫（個別の目標の共有化）

・のびっこ学級担任と交流学級担任、管理職との連絡・相談を密にして、早期対応(早期把握・早期支援)や保護者からの相談対応を確実実施。特別支援教育コーディネーターを窓口として関係機関・専門機関との連携を図り、管理職を交えて組織的に指導と対応を行う。

③ 交流及び共同学習の充実に向けた教育課程の編成

・交流及び共同学習の充実にむけたカリキュラムマネジメント

④ 通常学級及び特別支援学級の児童双方の学びを充実させる授業づくりと評価

○すべての子どもが「わかる」「できる」を実感する授業づくり。

・個の学びのデザイン → 指導（支援）過程・授業形態・グルーピングの工夫

・ユニバーサルデザインの授業づくり → 特別支援の視点・教科等指導法の研修

(2)地域のGTを取り入れた指導の充実

・「もの・ひと・こと」を活用した各学年の豊かな地域連携活動の継続・発展
見守り隊との交流、昔の遊び体験、校区探検、地域の公共施設見学、蛍の飼育・放流、田植え、稲刈り、幼稚園交流、被爆体験者講話、船原古墳見学・ＶＲ体験、身障者の方との交流、野幸山幸おのまつり、野幸山幸大運動会

・地域との協働の防災教育（フィールドワークやハザードマップ作成等）や環境美化（クリーンデイ、地域貢献活動）等の公益性のある活動を推進し、地域との連携・繋がりを強化。

(3)外国語科、外国語活動等の充実を図り、グローバルなものの見方・考え方を体験的に獲得できるような環境整備

・ＡＬＴ活用及び校内外の人材の活用を行う。

・外国語専科教員を中心とした研修を実施し、外国語科指導の基盤や環境づくりに努める。

(4)保健学習、安全教育の充実

○性に関する指導の充実とカリキュラム整備

・低学年からの性教育の充実と系統的なカリキュラムづくりの推進

○安全教育、防災教育の充実。

・避難訓練、かえる会、引き渡し訓練等の内容検討と年間計画の整備

・地域と連携しての防災訓練の実施（令和７年度の反省を活かして改善）